

ENCYCLOPEDIA OF MENSWEAR,
SEWING AND MAKING PATTERN

メンズ技術大百科

テーラードジャケット編

SAMPLE

井口喜正 著

この度は、メンズ技術大百科-テーラードジャケット編-のサンプルをダウンロードして頂き、ありがとうございました。

本来、サンプルはもっと早い段階で発表したかったのですが、思うように作業が進まず、発表が遅くなってしまった事をお詫び申し上げます。

当サンプルには、テーラードジャケットソーイング工程分析表（1）（2）及び、工程 No.172～No.183 までの合計 13 ページを掲載しています。本編をそのまま抜き出したものである為、ページ数は変更しておりませんのでご了承ください。

少ないページ数ですが、メンズ技術大百科のクオリティを確認する上での参考にしてください。

尚、当サンプルに関しては、自由に再配布していただいて構いませんが、著作権は放棄しておりませんので改変はしないようお願いいたします。

それでは、少しの間、メンズ技術大百科にお付き合い下さい。

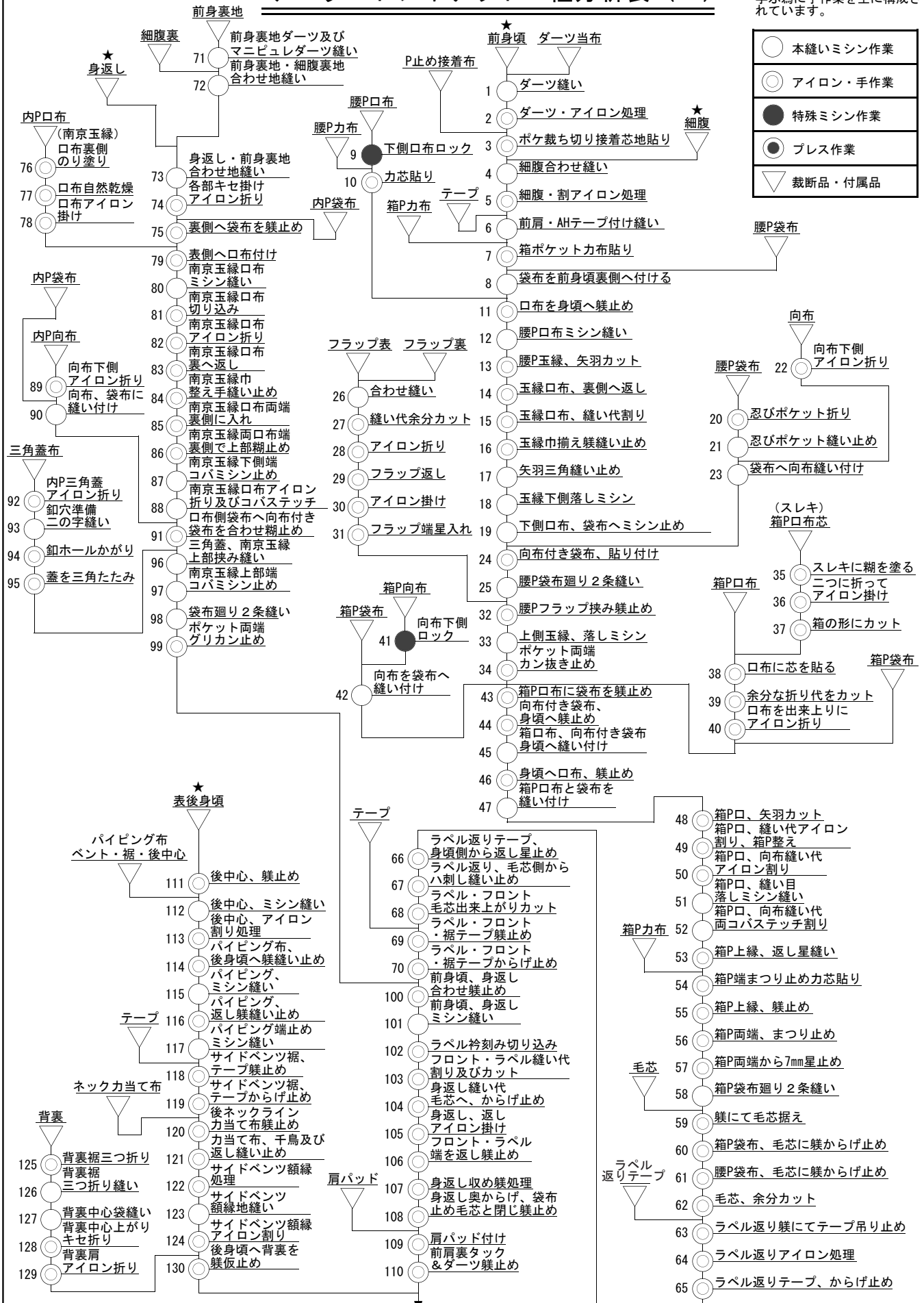
井口 喜正

★表身頃パーツ

テーラードジャケット工程分析表 (1)

※この工程分析表は、工程順を学ぶ為に手作業を主に構成されています。

○	本縫いミシン作業
◎	アイロン・手作業
●	特殊ミシン作業
◎	プレス作業
▽	裁断品・付属品



ジャケット工程分析表 (2) へ

掲載内容の一部または全てを(有)エルミニョンの許可なく、複製、流用、転用及び記載、転売する事を禁じます。

★表身頃パーツ

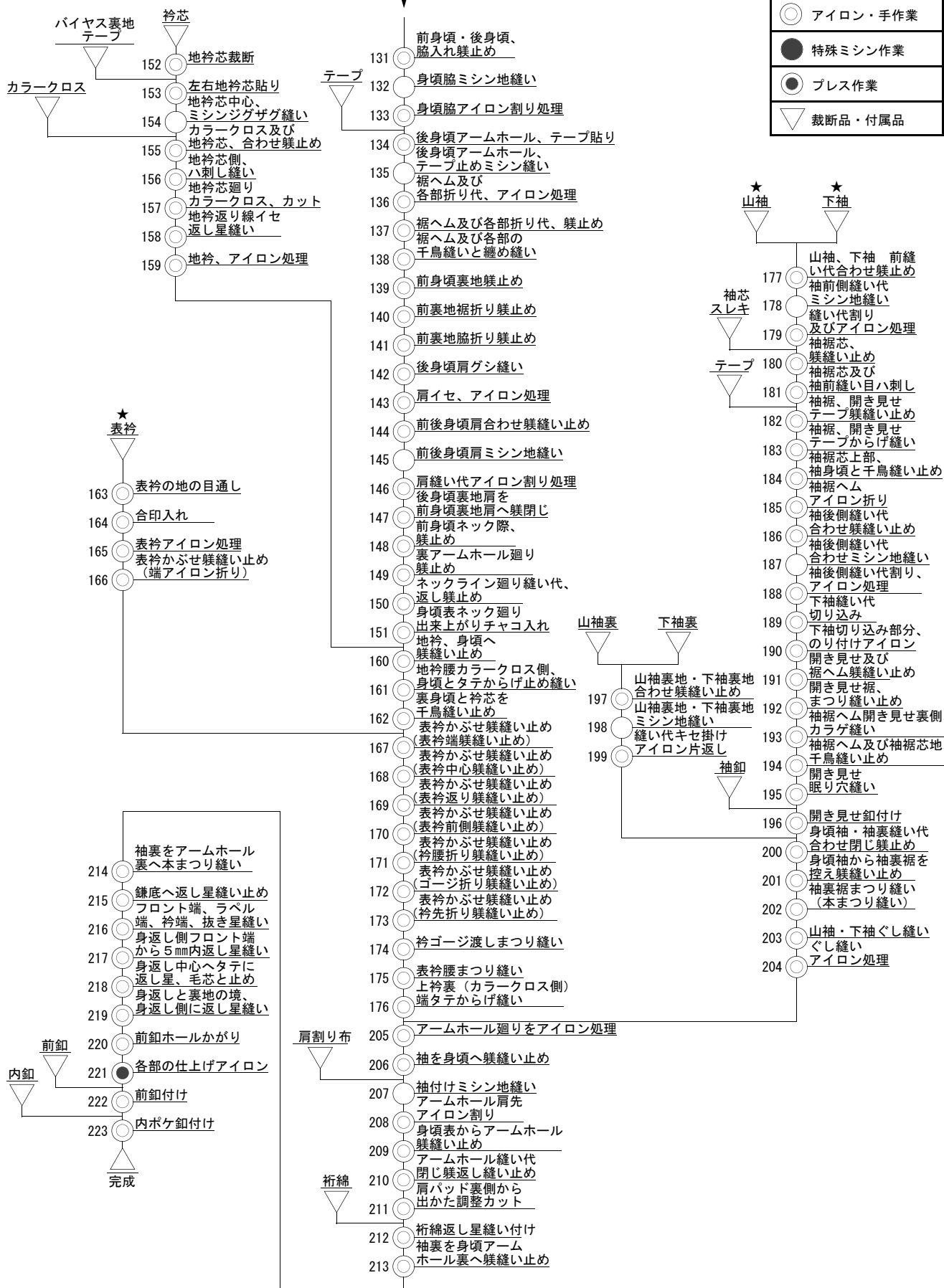
テーラードジャケット工程分析表（２）

※この工程分析表は、工程順を
学ぶ為に手作業を主に構成さ
れています。

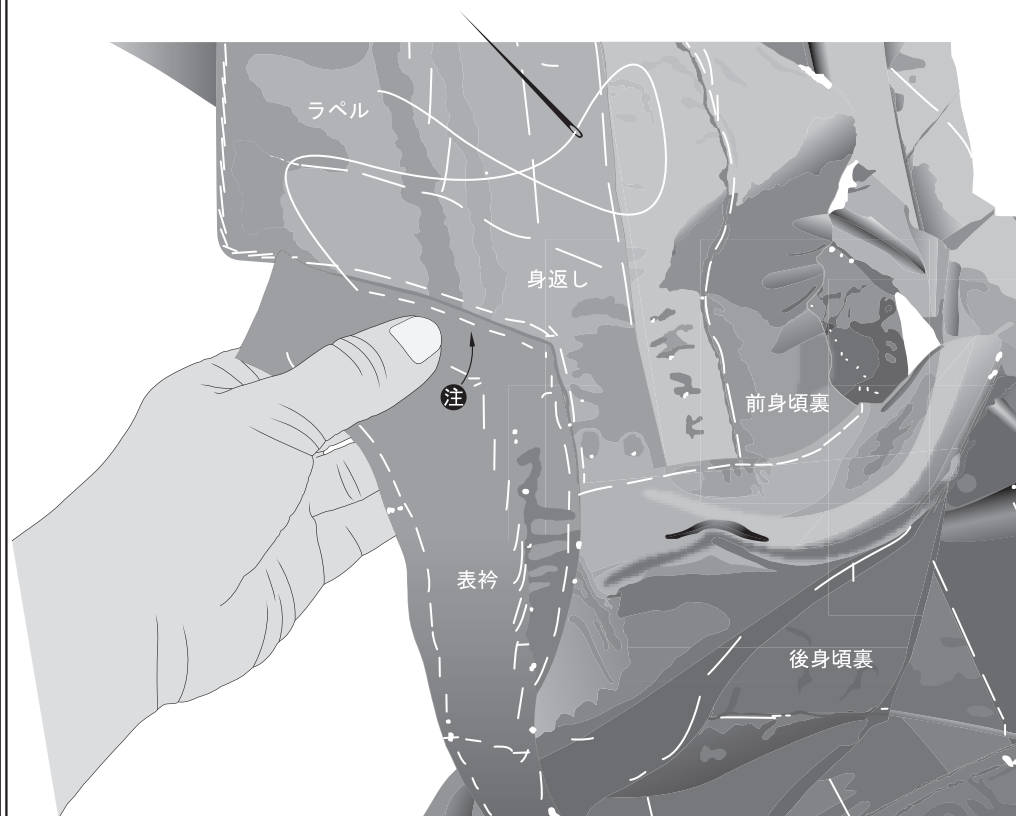
ジャケット工程分析表（１）から

組み立て工程

○	本縫いミシン作業
◎	アイロン・手作業
●	特殊ミシン作業
◎	プレス作業
▽	裁断品・付属品



【工程No172】表衿かぶせ縫い止め（ゴージ折り縫い止め）



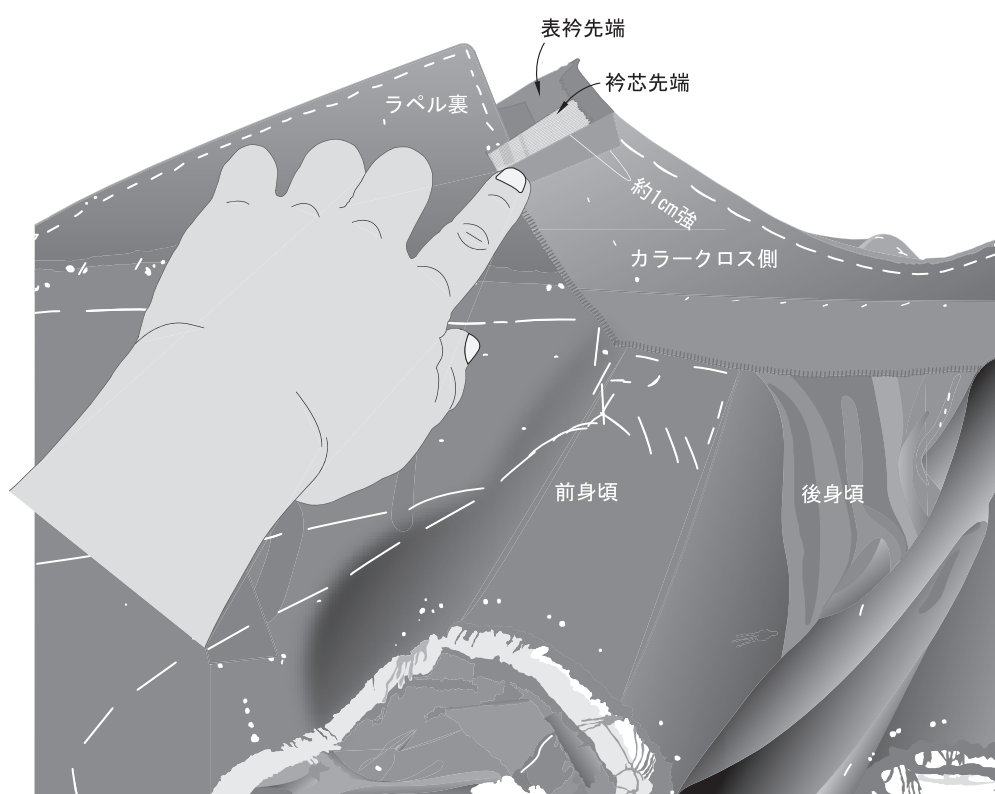
【工程No172説明】

※縫い止めは、衿腰からゴージに入ります。衿側ゴージの縫い代はラベル側ゴージと突合せになるので、事前に同じ巾でアイロンで折りをしておくとう良いでしょう。

※ゴージに縫い止めを行なう際に大切なポイントが2つあります。1つ目は、表衿返りの外廻り量を入れ過ぎないように注意すること。2つ目は、衿を返した時に表衿先が跳ねないように左手で外廻りを調整しながら縫い止めを行うことです。

※最後に衿キザミから1.5cm 手前で終了します。次の工程で衿先の折り処理を行います。

【工程No173-①】表衿かぶせ縫い止め（衿先折り縫い止め）



【工程No173-①説明】

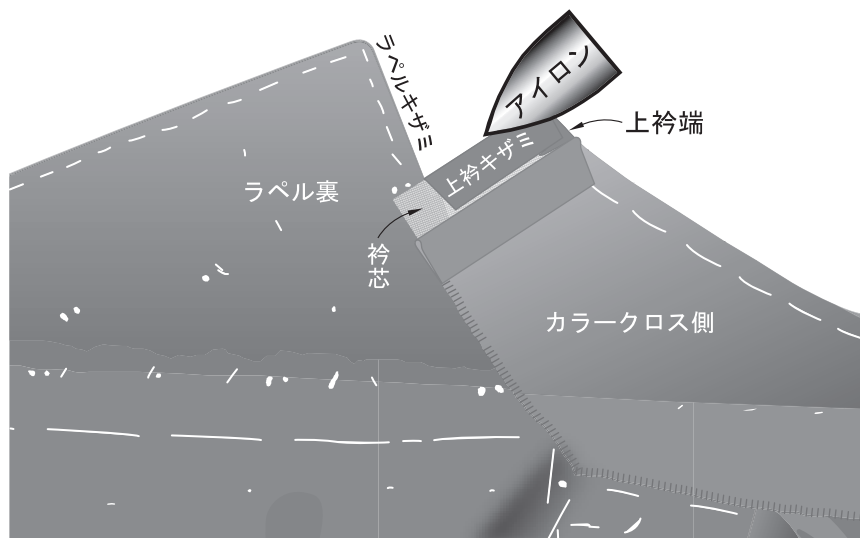
※衿先をカラークロス側から見ると、折り代はこれから折られる状態です。

※衿芯とカラークロスの間に衿先が折られて入ります。

※従って、もし先端までハ刺し縫い止めを行なっている場合、カラークロス先が約1cm強開く位にハ刺しの糸をカットして下さい。

※また、この時に表衿先端を衿芯先端のところで折って、ハ刺しに当たらないかを確認しておくことが大切です。

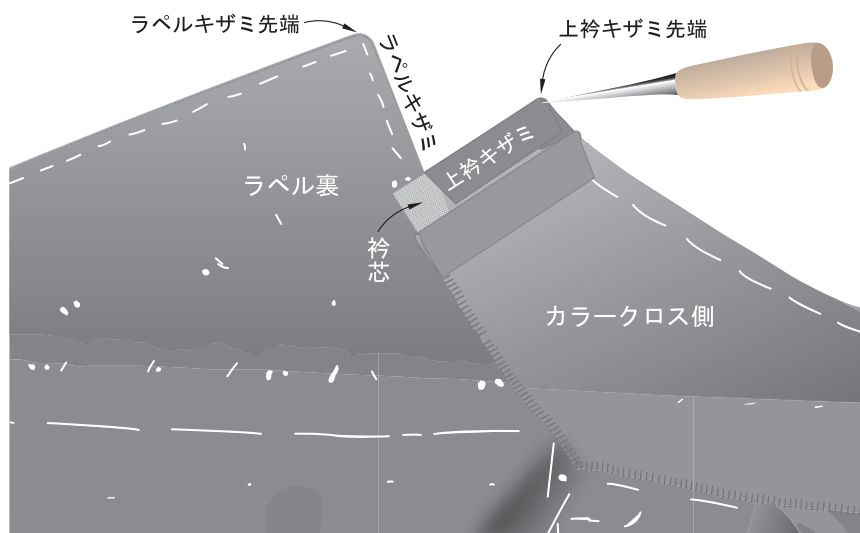
【工程No173-②】表衿かぶせ縫い止め（衿先折り縫い止め）



【工程No173-②説明】

- ※アイロンで表衿先端を折る前に左右の衿キザミの角度や長さが同じか確認して下さい。もし違う場合は衿芯をカットし、ラペルキザミと上衿キザミの角度と長さを調整して下さい。
- ※表衿先端のアイロン折りは少量の水を付けて行なって下さい。
- ※表衿先端の上衿キザミをアイロン掛けする際、ラペル側と上衿端に縫い代の厚みが出る為インカーブになりやすいので、直線になるよう意識して行なって下さい。

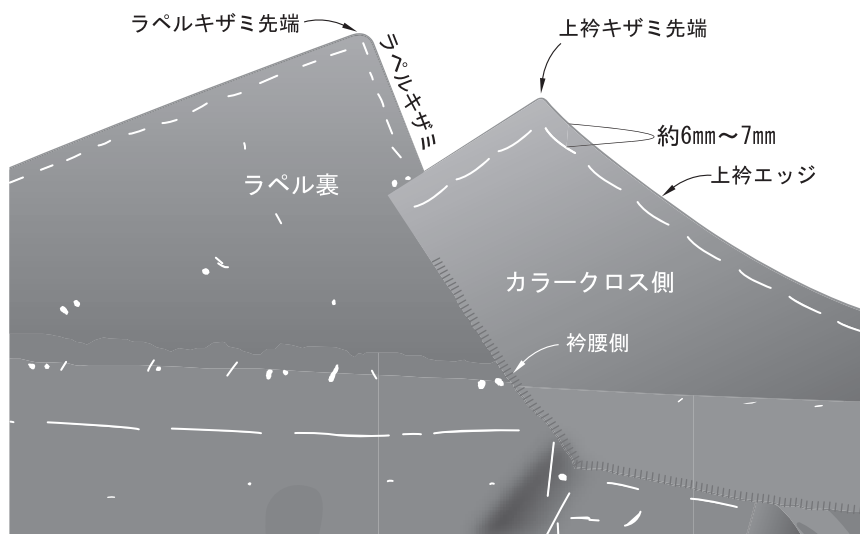
【工程No173-③】表衿かぶせ縫い止め（衿先折り縫い止め）



【工程No173-③説明】

- ※ラペルキザミ先端は、身返しを縫い返すと自然に小丸になります。従って上衿キザミ先端もラペルとのバランスを考え、ラペルキザミ先端の丸みよりやや小さい小丸に目打ちを使って行います。
- ※目打ちで上衿キザミ先端の角を押し込み、指先で固定して水を少し付けアイロンを掛け、少しずつ丸を整えて行きます。
- ※丸が出来たら目打ちの先に糊を少し付け、上衿先端の丸が戻らないように少し糊を付けアイロンで固定します。

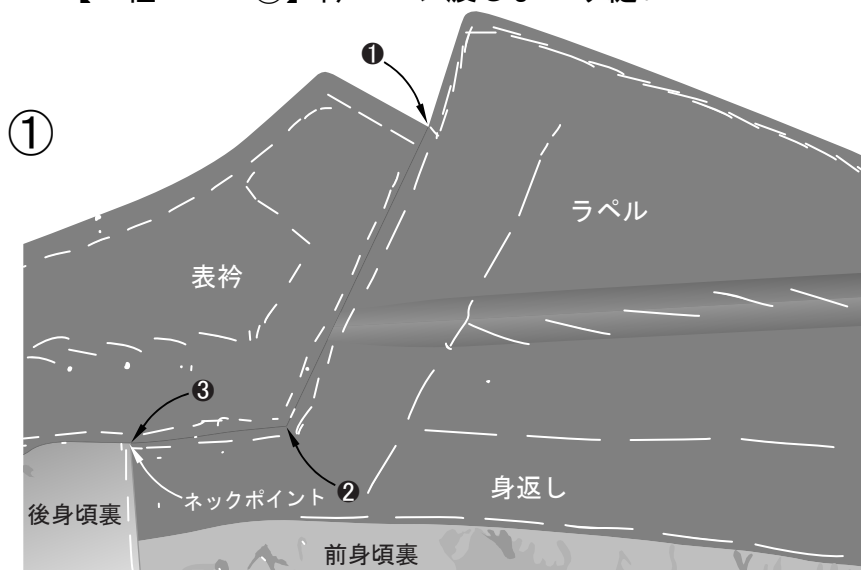
【工程No173-④】表衿かぶせ縫い止め（衿先折り縫い止め）



【工程No173-④説明】

- ※上衿先端にカラークロスをかぶせ、端から約6mm~7mm 縫い止めを行って下さい。
- ※この部分は、手縫い絹糸で約3mm~4mmの縦からげ縫いを行うので、縫い止めは上衿エッジ（上衿端）から約6mm~7mmになります。
- ※上衿裏のカラークロスは縦からげ縫いを行いますので衿腰以外の上衿エッジから約1mm控えてカラークロスをカットして下さい。
- ※その後、上衿エッジのカラークロス側に縦からげ縫いを行います。

【工程No174-①】 衿ゴージ渡しまつり縫い

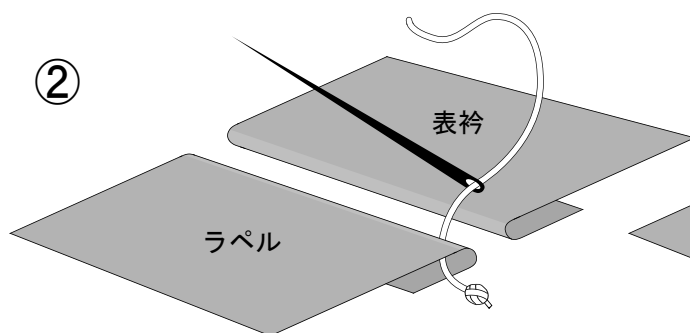


【工程No174-①説明】

※①～②は、ゴージラインで
②～③は、ネックラインになります。

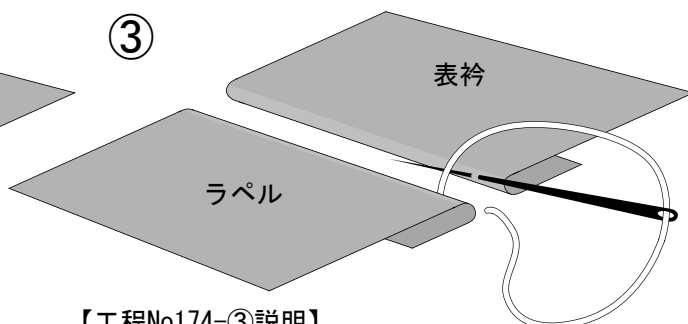
※衿ゴージ渡しまつり縫いは
①～③の間で行ないます。
この間は双方のパーツが突
き合わせ状態になっている
為、この縫い方を使用しま
す。縫い間隔は約2mmです。
糸を強く引きすぎるとゴ
ージの縫い目は直線になら
ず蛇行するので注意して下
さい。

※ミシン縫いで行なう場合、
①～②の間をミシン縫いま
す。②～③は、渡しまつ
り縫いにて処理して下さい。



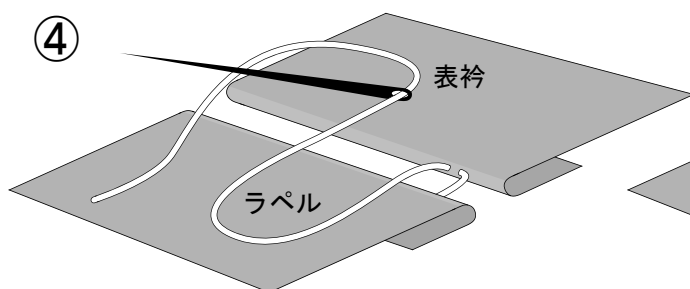
【工程No174-②説明】

※絹手縫い糸の先を結び、最初の縫いで結び
が見えない箇所に入れます。



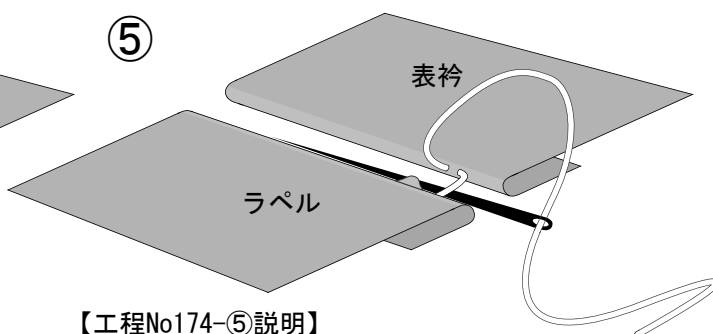
【工程No174-③説明】

※ラペルから出した糸は、表衿の真横に少し
斜め下の角度で針を入れます。



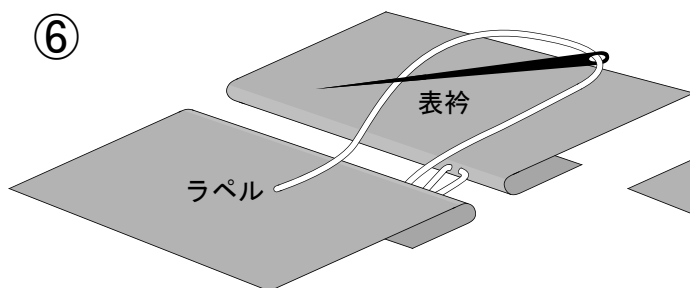
【工程No174-④説明】

※表衿に入れた針を抜き、少し引きますが、
引き過ぎると縫い目が蛇行するので注意。



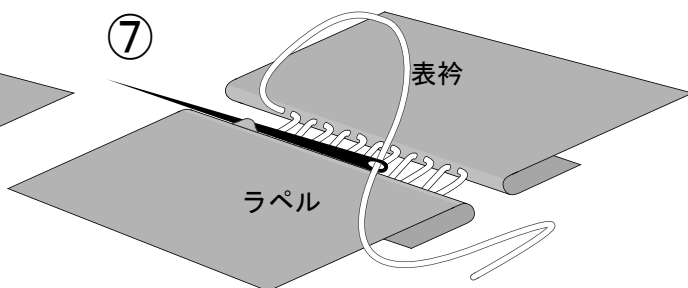
【工程No174-⑤説明】

※表衿から出した糸は、ラペルの真横に少し
斜め上の角度で針を入れます。



【工程No174-⑥説明】

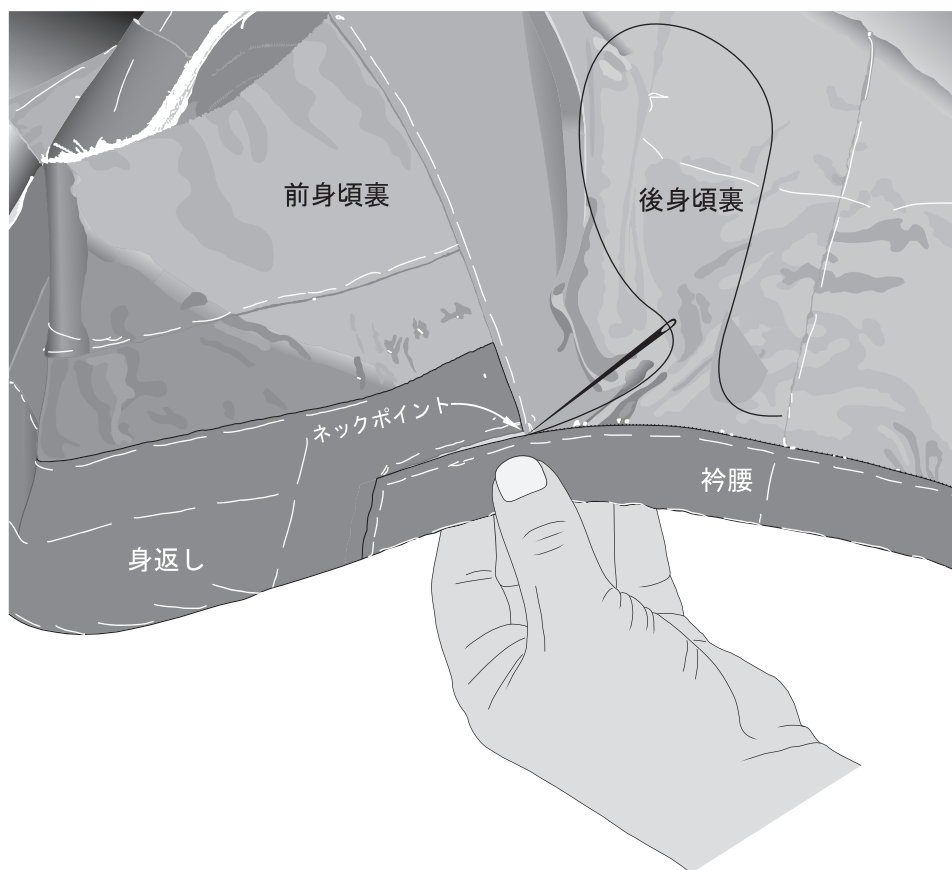
※ラペルに入れた針を抜き、同じく少し
引きますが、引き過ぎに注意して下さい。



【工程No174-⑦説明】

※連続で図のようになります。実際にはラペルと
表衿は離れていません。

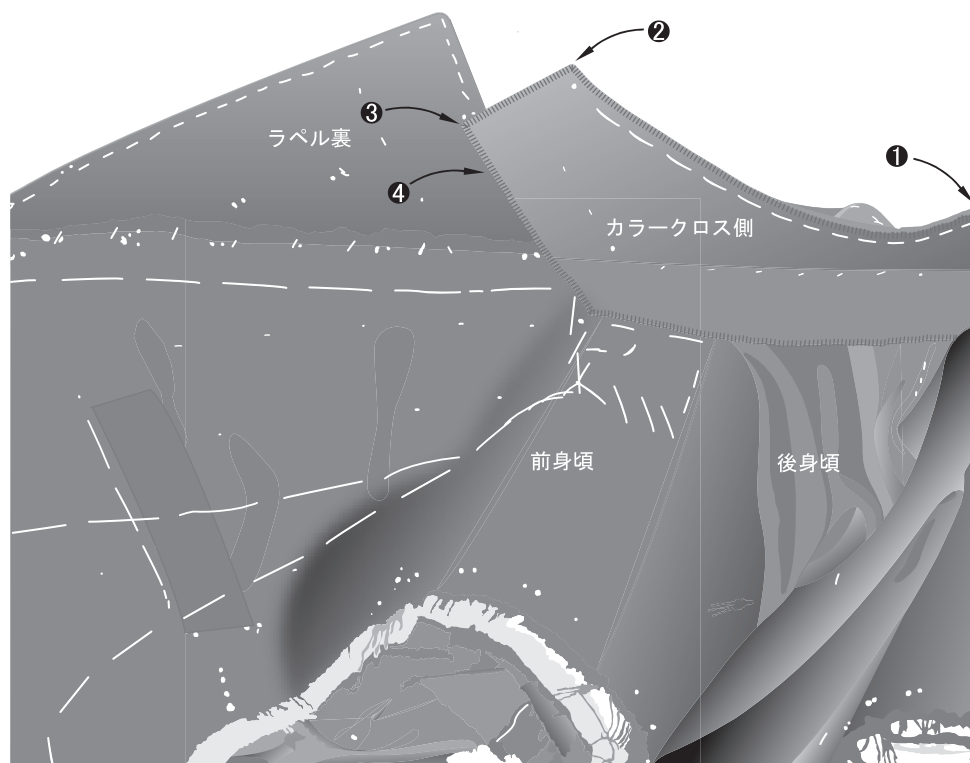
【工程No175】表衿腰まつり縫い



【工程No175説明】

- ※表衿腰まつり縫いは、本まつり縫いで行って下さい。
- ※P. 96の本まつり縫いを参照して下さい。
- ※下前（右身頃）のネックポイント（N・P）から上前（左身頃）のネックポイント（N・P）まで約2mm～3mmの間隔で本まつり縫い処理を行って下さい。
- ※本まつり縫い作業で再度、衿腰の中が左右均等になっているか確認することも大切です。

【工程No176】上衿裏（カラークロス側）端タテからげ縫い

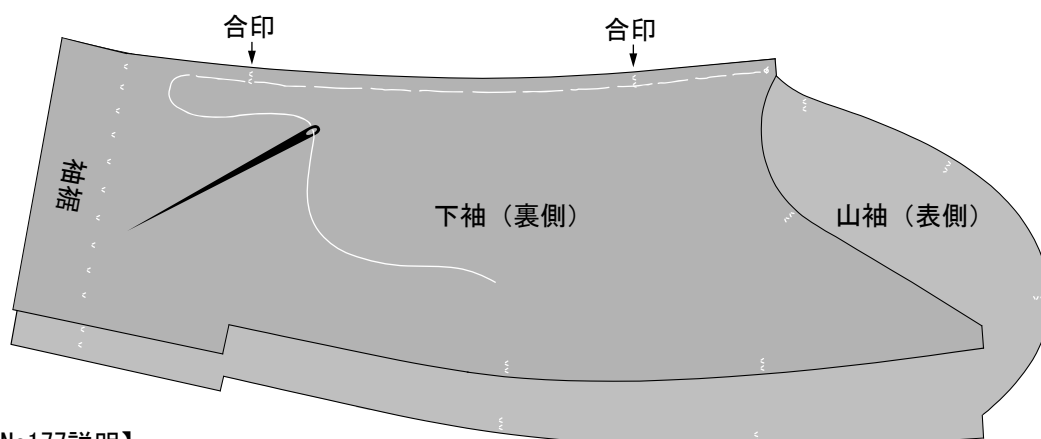


【工程No176説明】

- ※この工程は、【工程No161】の続きになります。
- ※タテからげ縫いの間隔は、糸一本分か一本半分で、長さは3mmから4mm程が一番美しく仕上がります。
- ※右利きの方でしたら①の右身頃から始め②③④の順序で、タテからげ縫いを行って下さい。
- ※④から先は既に【工程No161】で完了しているの、最初に行ったタテからげ縫いとカラークロス一回りが一体になるよう心掛けて作業して下さい。

(袖の製作)

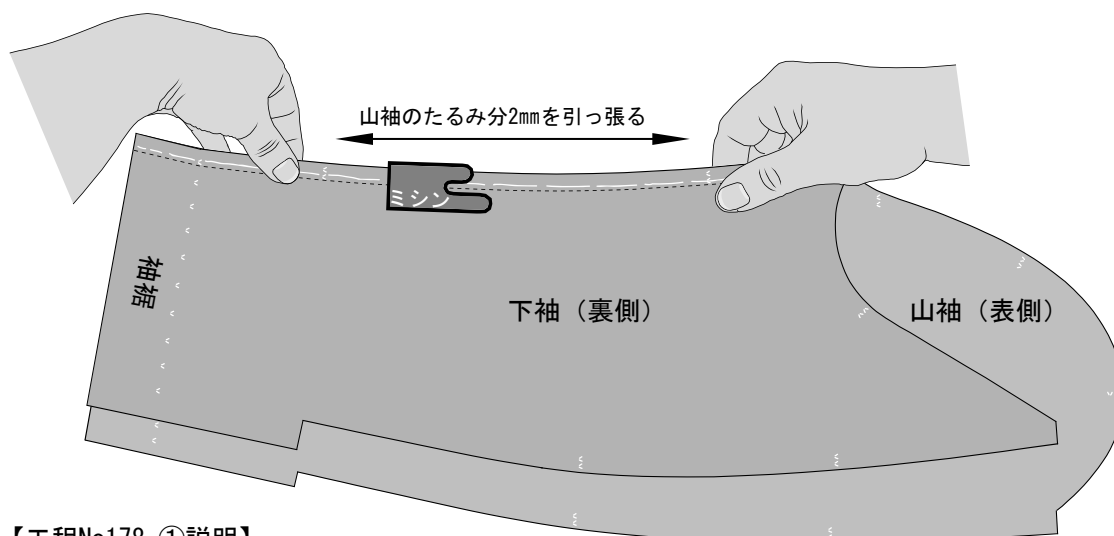
【工程No177】山袖、下袖、前側縫い代合わせ戻縫い止め



【工程No177説明】

※袖を図のように置き、ミシン地縫いの出来上がり位置より少し裁ち切り側へ戻縫い止めます。
 ※袖上部の合印から袖下部の合印は山袖が2mm短くなっているのです、その分伸ばして戻縫い止めをして下さい。

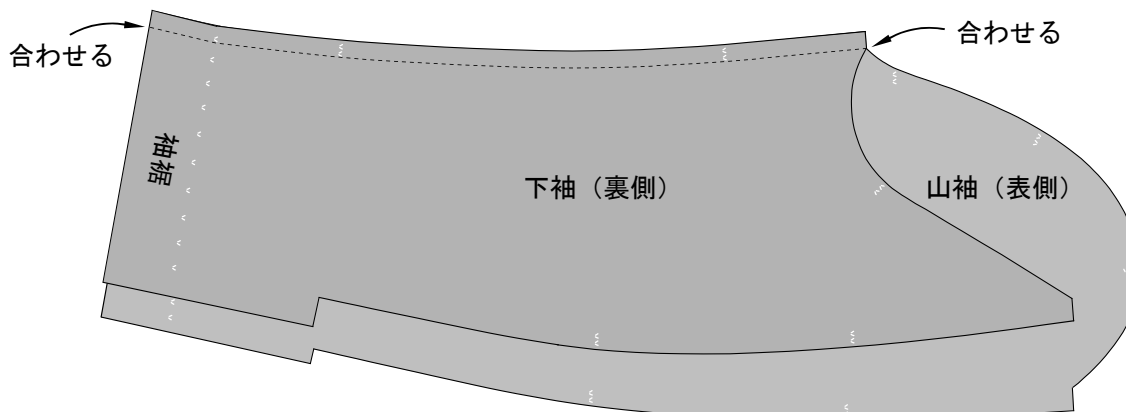
【工程No178-①】袖前側縫い代ミシン地縫い



【工程No178-①説明】

※図の場合は袖裾からミシン地縫いを行います、下部合印までミシンが来た時、袖裾側縫い代と上部合印を手でつまみ、山袖のたるみが無いように引っ張りながら上部合印まで縫い、後は山袖と下袖の出来上がりを正確に縫って終了です。下前はこの図の逆になります。

【工程No178-②】袖前側縫い代ミシン地縫い確認

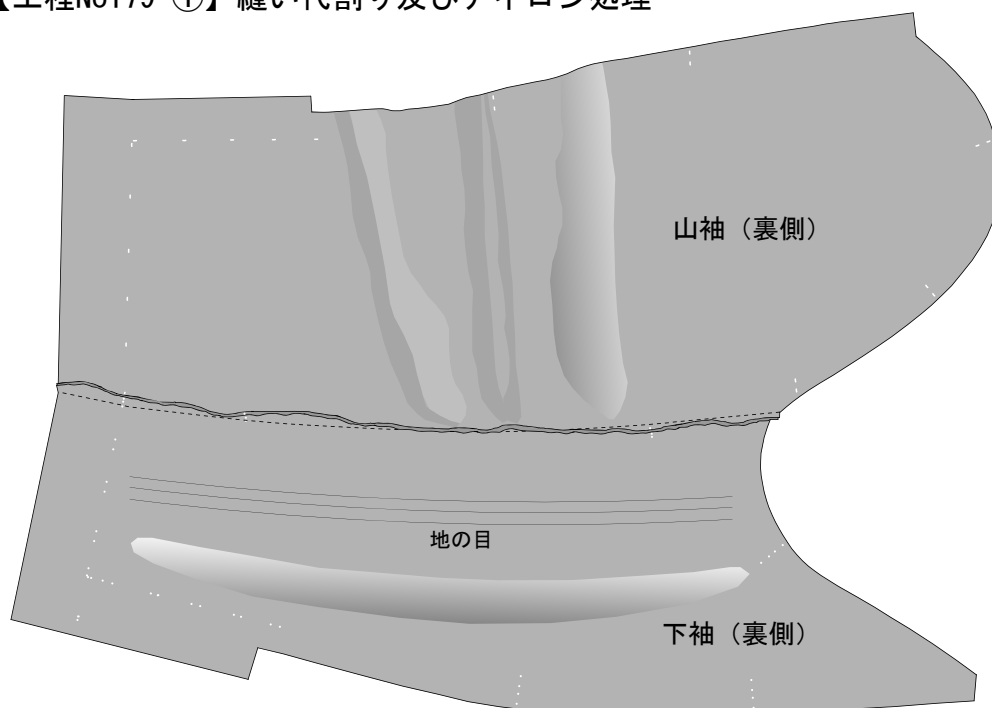


【工程No178-②説明】

※縫い代割り及び処理準備のため戻糸は抜いて下さい。また、山袖と下袖の上下部が合っているか確認して下さい。

(袖の製作)

【工程No179-①】縫い代割り及びアイロン処理

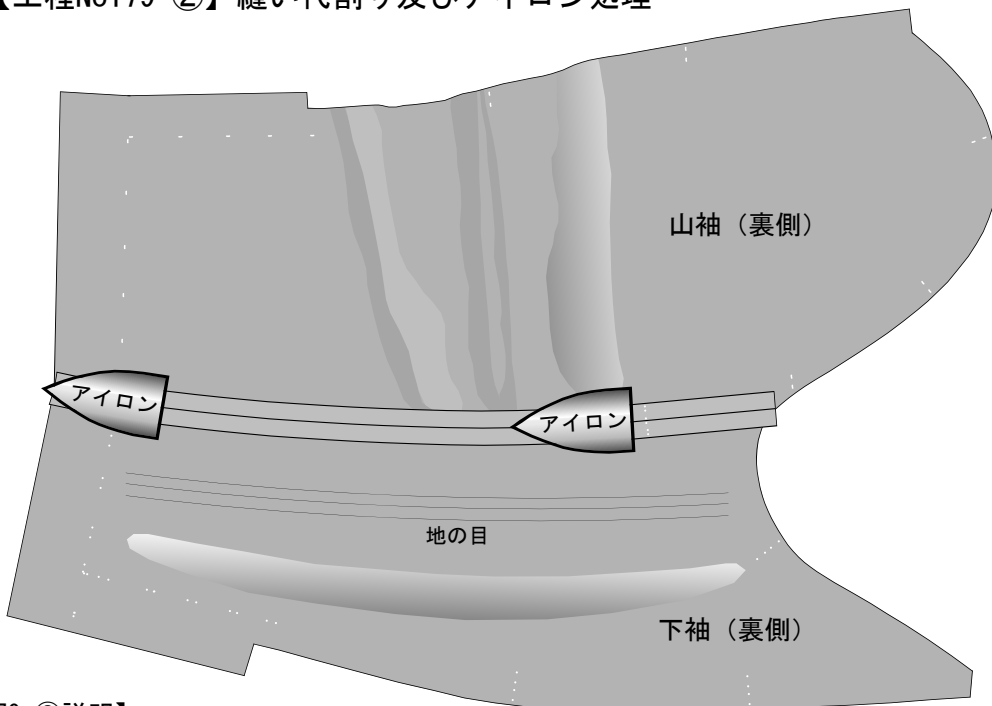


【工程No179-①説明】

※縫い代割り及びアイロン処理を行う前に、図のような状態に袖を広げ、下袖を基準に地の目を通しますが、直線より少し曲線ぎみに地の目を直します。

※縫い目は、美しい曲線になるよう指で整えて下さい。山袖側にシワが出ますので、このシワは3箇所分散しておく方が良いでしょう。

【工程No179-②】縫い代割り及びアイロン処理



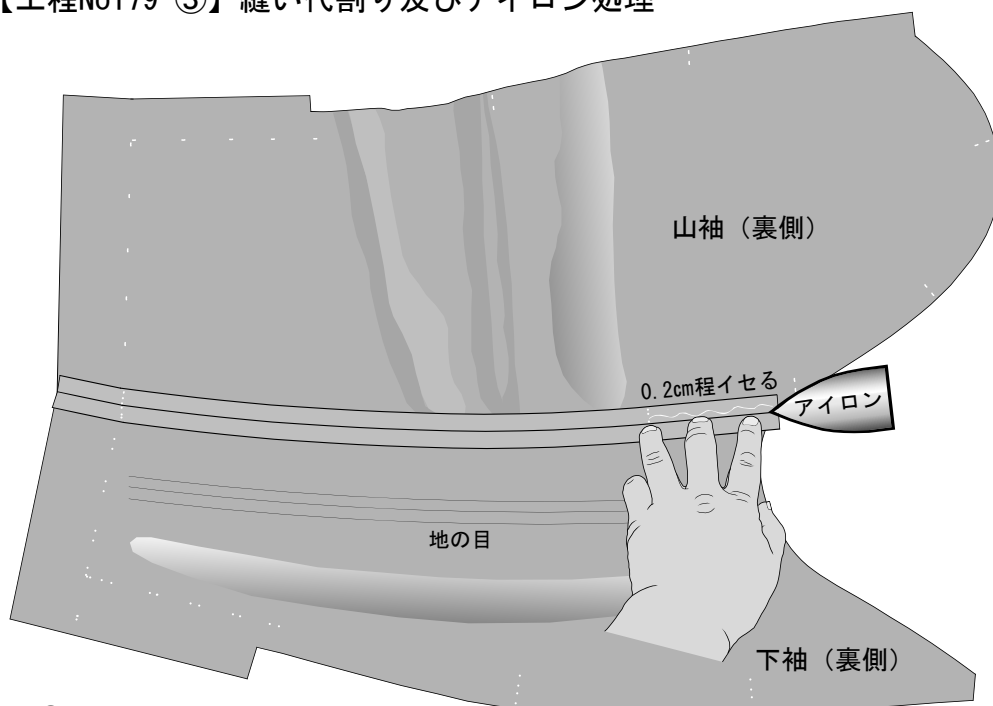
【工程No179-②説明】

※アイロン処理の最初は、袖の上部から袖裾に掛けて軽くアイロンで縫い代を割ります。この時、縫い目は美しい曲線になるよう指で整えながら行います。

※最初にセットした下袖の形が崩れないようにアイロンを掛けます。また、下袖裾や山袖裾は横バイアスの為、伸びたり直線が崩れたりする可能性がある所以注意して下さい。

(袖の製作)

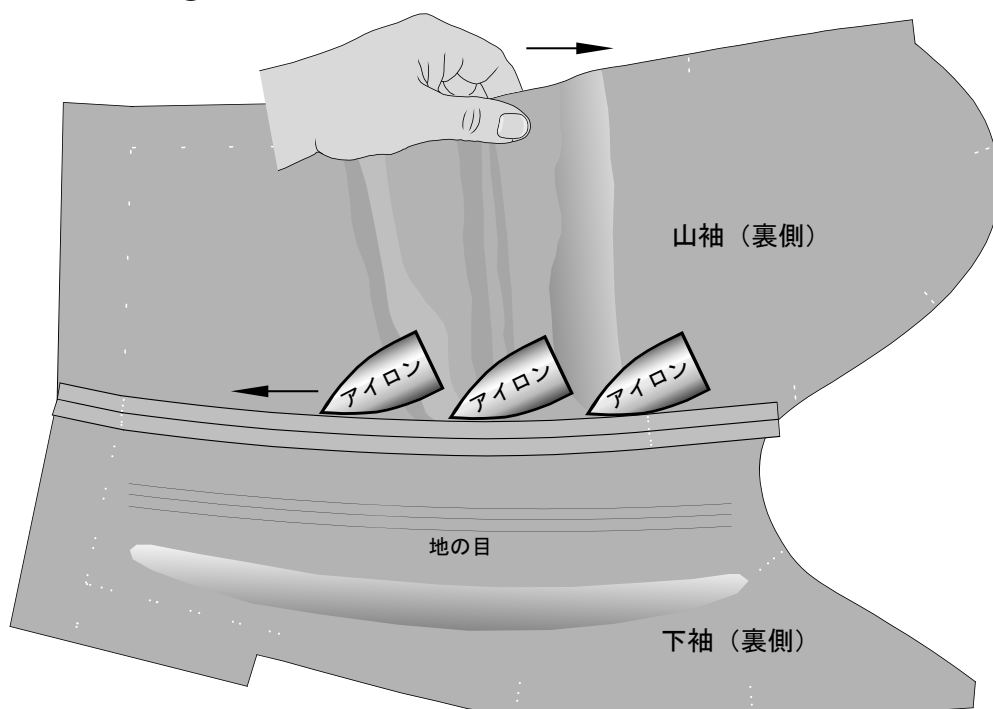
【工程No179-③】縫い代割り及びアイロン処理



【工程No179-③説明】

※アイロン処理を行う箇所に少量の水を付け、袖の上部から合印までを指でよせます。布がたるんだ分、0.2cm程アイロンでイセを入れます。この時、火傷をしないよう注意すること。

【工程No179-④】縫い代割り及びアイロン処理

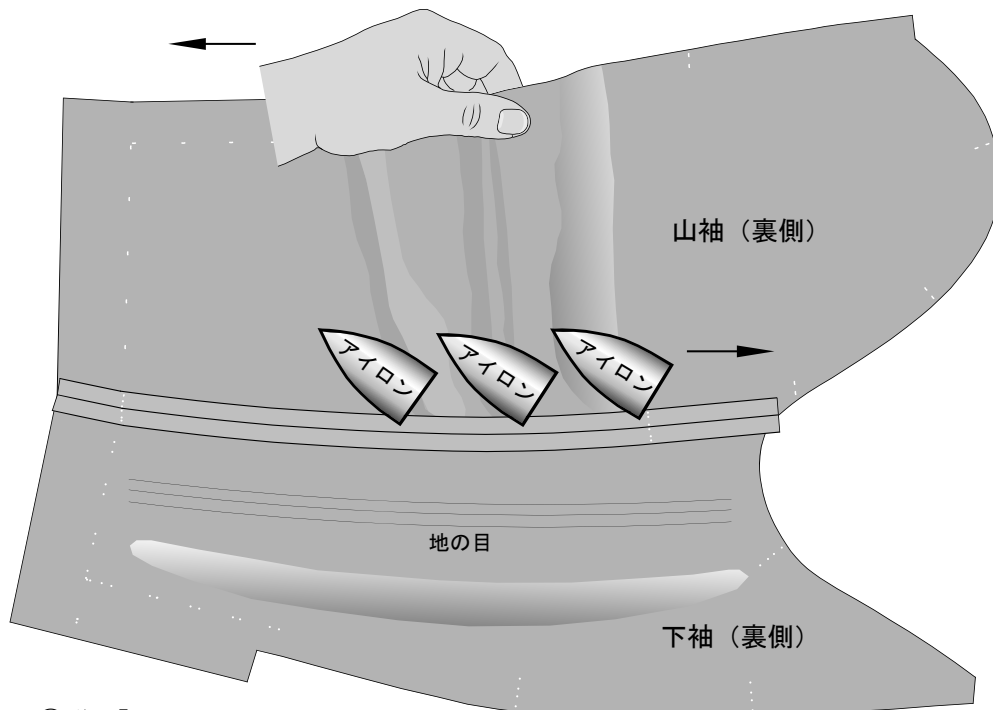


【工程No179-④説明】

※アイロン処理を行う箇所に少量の水を付けます。山袖の後端を手で持って、縫い目から直接出ているシワを分散しながらアイロンの前進する左側の底を少し上げ、均等にシワをアイロンの底に入れて押さえます。処理が不十分な場合は水を付け完全に布が平になるまで処理します。布をバイアス方向に処理すると効果的です。

(袖の製作)

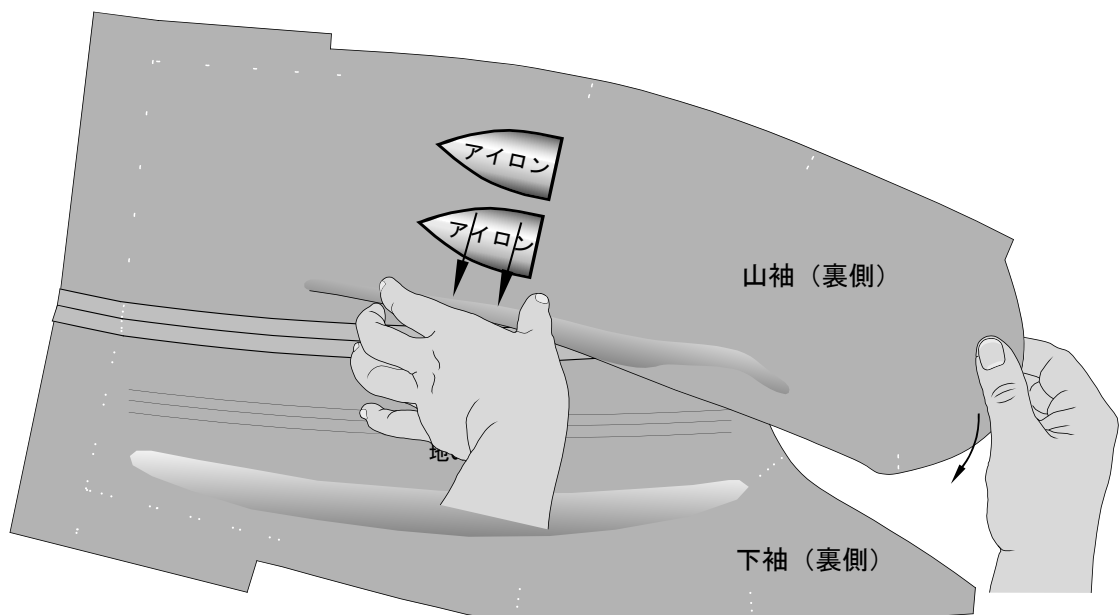
【工程No179-⑤】縫い代割り及びアイロン処理



【工程No179-⑤説明】

- ※再び少量の水を付けます。【工程No179-④】で行った動作を反対方向から行います。山袖の端を持った手の動きは、アイロンの動きと逆方向になるような感じで処理すると良いでしょう。
- ※山袖の縫い目から出ているシワが縫い目から4～5cm程離れるまで、少量の水を付けながら丁寧に繰り返し行います。アイロンで布を焦がさないよう注意して下さい。

【工程No179-⑥】縫い代割り及びアイロン処理

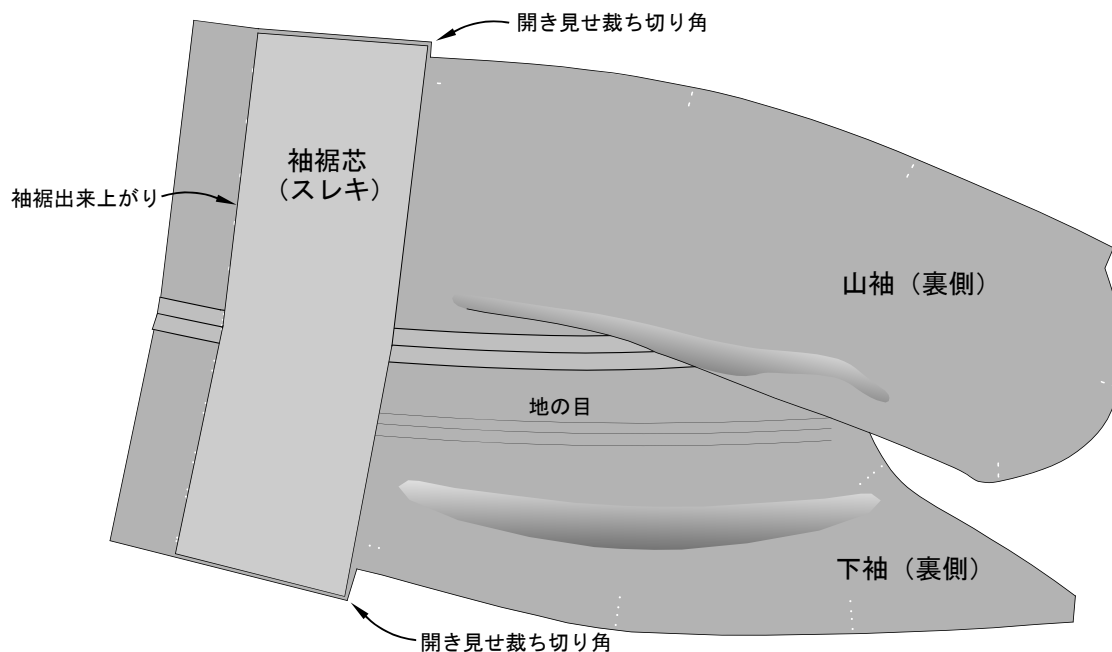


【工程No179-⑥説明】

- ※山袖の上部を手で持って山袖後側のシワが無くなるほど手前に引くと、【工程No179-⑤】で追い込んでイセた反対側に余りシワが出ているので、このシワを逃さないよう指で固定し、少量の水を付けて矢印の方向にアイロンを進め処理します。
- ※必要以外の箇所に水を付けるとアイロン処理を行った部分が戻るので注意して下さい。

(袖の製作)

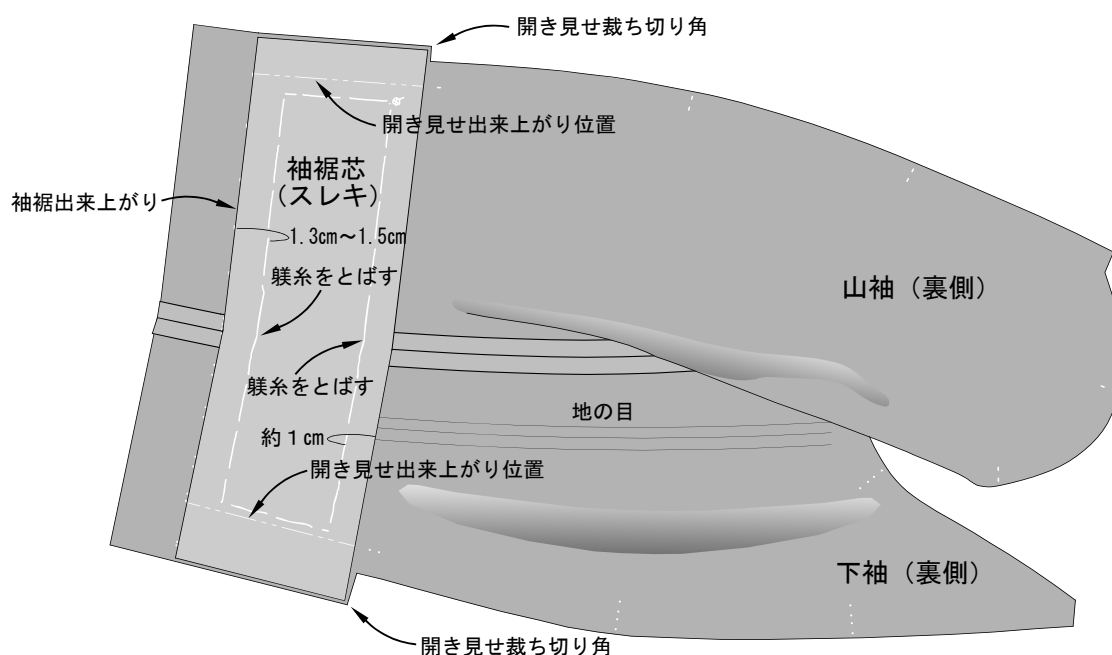
【工程No180-①】 袖裾芯、羨縫い止め



【工程No180-①説明】

※袖裾芯はスレキを使用します。大きさは開き見せ釦の個数によっても異なりますが、ここでは開き見せ裁ち切り角に裾芯巾を合わせます。
 ※袖裾出来上がりから開き見せ裁ち切り角までの巾を平行に裁断して下さい。袖裾はへの字になるので、裾芯もへの字に裁ちます。

【工程No180-②】 袖裾芯、羨縫い止め

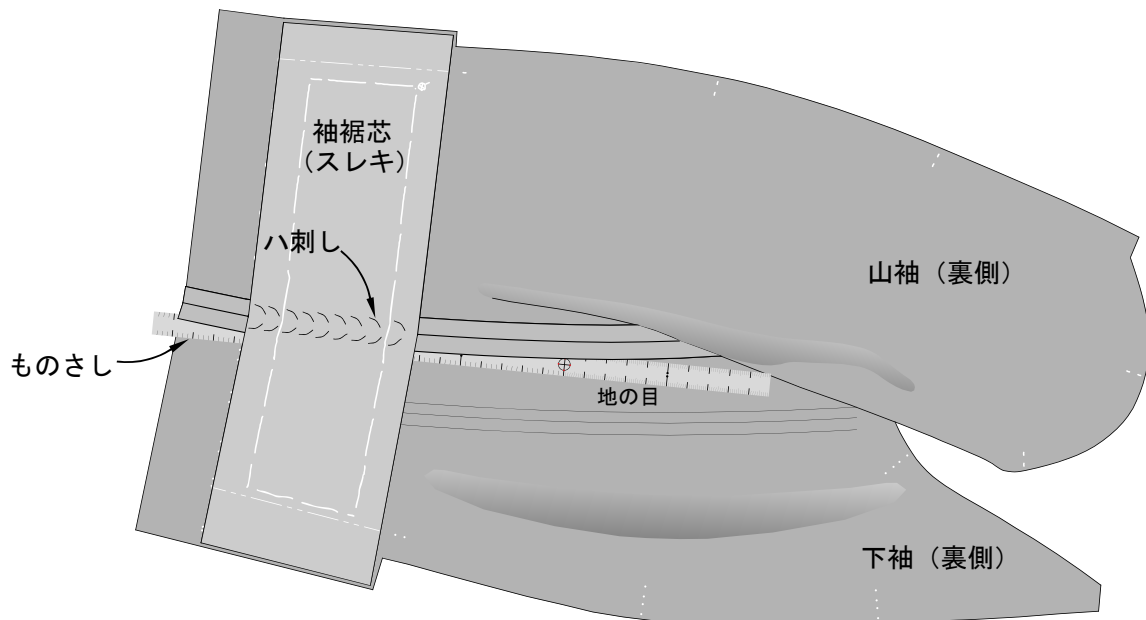


【工程No180-②説明】

※図は、羨縫い止めが終了した状態です。次の工程でテープが付くので、開き見せ側は出来上がりより少し内側へ、裾は出来上がりから1.3cm~1.5cm控え、裾芯上部は約1cm控えた各位置に羨縫い止めを行って下さい。
 ※袖の縫い代位置の袖裾芯羨縫い止めは、図のように羨縫い止めに飛ばして下さい。

(袖の製作)

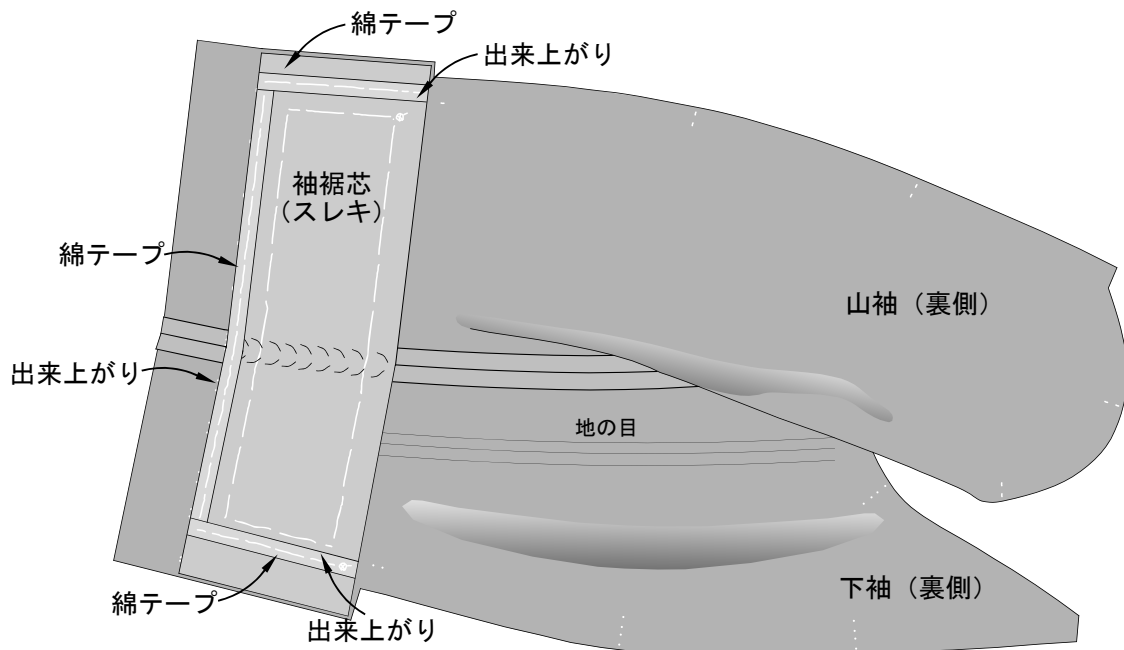
【工程No181】袖裾芯及び袖前縫い目ハ刺し



【工程No181説明】

※袖裾芯 (スレキ) から下の縫い代を^{すく}うようにハ刺し縫いを行います。糸は引っ張らずに緩く縫います。ハ刺し縫いの際、表側へ糸が出ないように縫い代の下にものさしを敷いてハ刺し縫いを行うことで楽に出来ます。

【工程No182】袖裾、開き見せテープ襷縫い止め

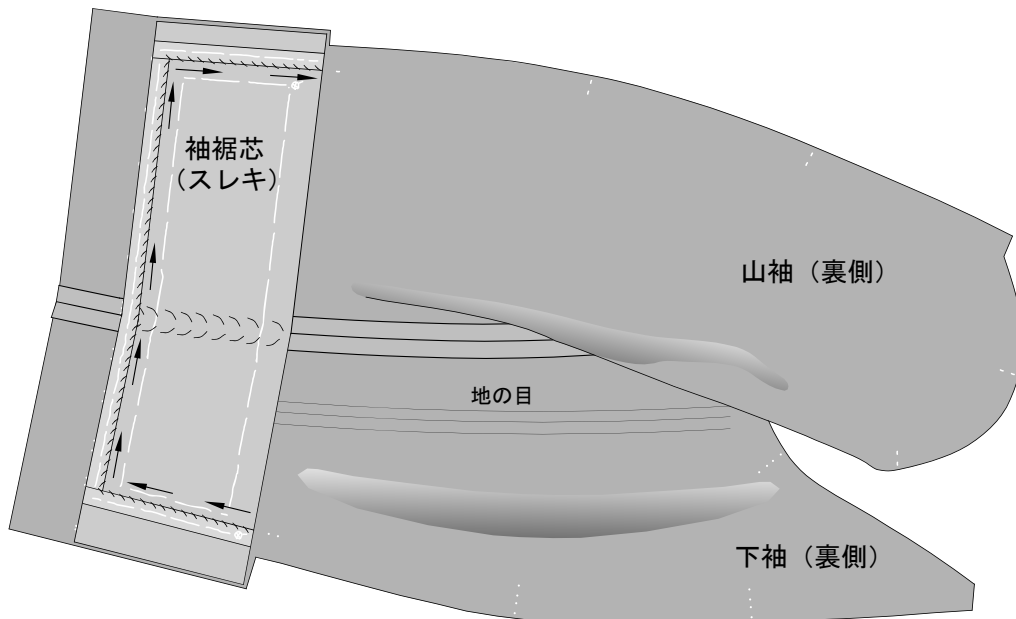


【工程No182説明】

※この場合のテープ付けは、接着テープは使用しません。市販されている糊無しで1cm巾の綿テープを使用します。
※図のように3箇所、綿テープを裾ヘム、開き見せそれぞれの出来上がりにテープを置き、襷縫い止めますが、事前に水の中へ浸けてからアイロンで乾かし使用して下さい。

(袖の製作)

【工程No183-①】袖裾、開き見せテープからげ縫い

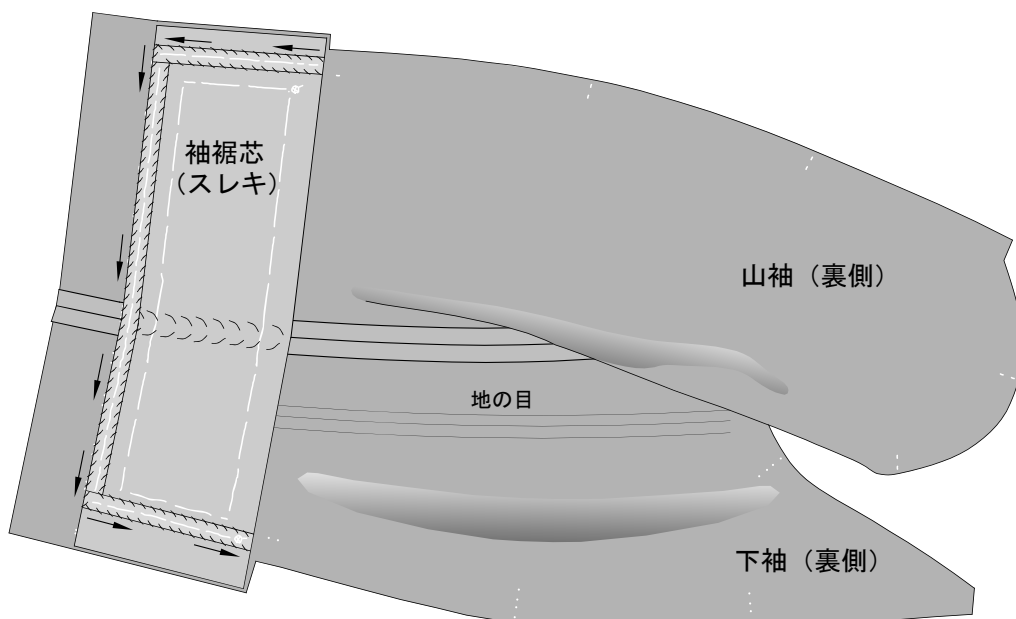


【工程No183-①説明】

※からげ縫いを矢印の方向へ縫って行きます。この縫いの場合、スレキに糸が止まっていれば問題ありません。糸は強く引かずにテープが軽く止まる程度に糸を引いて下さい。

※糸の種類は、糸当りを抑えるために絹ミシン糸をお奨めします。

【工程No183-②】袖裾、開き見せテープからげ縫い



【工程No183-②説明】

※外側のテープからげで開き見せの箇所はスレキのみから上げ止めを行います、袖裾は表袖側布の糸一本分を掬った後テープから上げます(表側に糸を出さない為です)。

※特に袖裾側は、糸を引きすぎて表側に糸がひびかないように注意して行って下さい。

メンズ技術大百科-テーラードジャケット編- サンプルはいかがでしたでしょうか。

今回のサンプルでは、ソーイングのごく一部分のみの発表でしたが、本編では、パターン作成・ソーイング共に図をふんだんに取り入れ解説しています。

また、今回配布したサンプルは電子書籍版の一部分の抜粋ですが、全ての図は写真ではなく、一つ一つ線で描いていますので、拡大や縮小をしても図が荒くなりません。そのままのクオリティで拡大・縮小が可能です。

書籍版につきましては、A4 サイズのグレースケールでの印刷になり、拡大縮小などはできませんが、印刷クオリティが高く、まさに永久保存版と言える出来に仕上がっています。

サンプルを見て、今の自分に本当に必要かどうかを良く考えた上で、もし必要であるならば、下記のサイトよりお買い求めください。

<http://www.encyclopedia.iguma.net/>

現時点で必要ない場合は、必要になったときに、またメンズ技術大百科を思い出してください。急に販売停止にしたりしません。いつまでもあなたをお待ちしております。

それではまた、本編でお会いしましょう。

井口 喜正

※【電子書籍版のご購入を検討されている場合】

電子書籍版をご購入の場合、もちろんそのままパソコンを使用してメンズ技術大百科を活用して頂いても構いませんが、より素早いページ検索と情報の一元化の為、**印刷を推奨しています**（個人用途に限ります）。

例えば、印刷したページを別途購入したバインダー等に保存し、学習上気付いた事などを一緒にファイリングしておく大変便利です。また、メンズ技術大百科には、【〇〇ページ参照】などの記載も多いので、電子書籍と印刷したバインダーの両方を活用すれば、参照ページの確認も素早く行えます。

よって、もし上記のように活用したいとお考えの場合は、今回ご提供したサンプルがプリンターで綺麗に印刷できるかどうかをご確認ください。